

2024年4～6月期

HP <https://www.shinkin.co.jp/toshin/>

全業種総合

回答企業数290企業（回答率100.00%）

概況

～総合的業況判断DI値 改善で推移～

総合的業況判断DI値は、前期比21.4ポイント上昇の▲2.1と改善となった。

業種別での業況判断DI値は、飲食業が42.1ポイント上昇の36.8、サービス業も33.3ポイント上昇の11.9、建設業は33.3ポイント上昇の0.0、小売業では16.5ポイント上昇の▲3.3、製造業が8.8ポイント上昇の▲9.4、不動産業は11.1ポイント上昇の▲11.1、卸売業も6.9ポイント上昇の▲27.6、運輸業は0.0ポイント横ばいの▲30.0となった。7業種が改善し、1業種に於いて横ばいとなった。2業種がDI値プラスに転じた。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料仕入価格の上昇」149先、「人員不足」92先、「売上の低迷・減少」90先、「経費の増加」77先、「利幅の縮小」65先と上位を占めた。

前回調査比、「材料仕入価格の上昇」は48先増加、「人員不足」が5先減少、「売上の低迷・減少」は4先減少、「経費の増加」は21先増加、「利幅の縮小」は6先減少となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が38先、前期比1先増加、設備投資実施予定割合は13.1%と前期比0.3%増加した。業種別では、サービス業（土地・建物・機械等）21.4%、運輸業（その他）20.0%、飲食業（土地・建物・機械等）15.8%、建設業（土地・機械等）13.8%、製造業（土地・建物・機械等）12.5%、卸売業（土地・建物・機械等）10.3%、小売業（土地・建物・機械）9.9%、不動産業は計画なしとなった。

資金繰りDI値は、前回調査比7.6ポイント上昇の▲10.3とやや改善、今期借入した企業は17.9%と前回調査時（17.6%）より0.3%増加となった。

来期の見通し

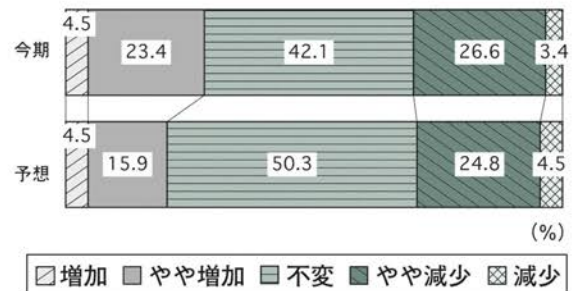
～総合的業況判断DI値 やや悪化の見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比6.9ポイント低下の▲9.0とやや悪化の予想となった。

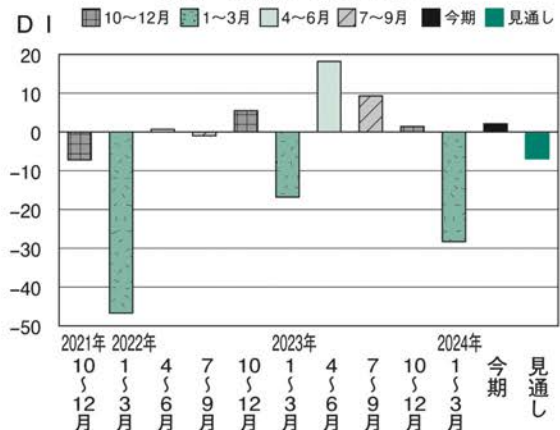
業種別では、飲食業が21.0ポイント低下の15.8、建設業は8.6ポイント上昇の8.6、不動産業も11.1ポイント上昇の0.0、サービス業は21.4ポイント低下の▲9.5、小売業も6.6ポイント低下の▲9.9、製造業でも9.4ポイント低下の▲18.8、運輸業は10.0ポイント上昇の▲20.0、卸売業では17.2ポイント減少の▲44.8となり来期の見通しは3業種で改善し、DI値は2業種がプラスを見込んでいる。

今期資金手当てした先が17.9%、今後資金手当て等借入を予定している先は17.9%となっている。

業況判断（全業種）



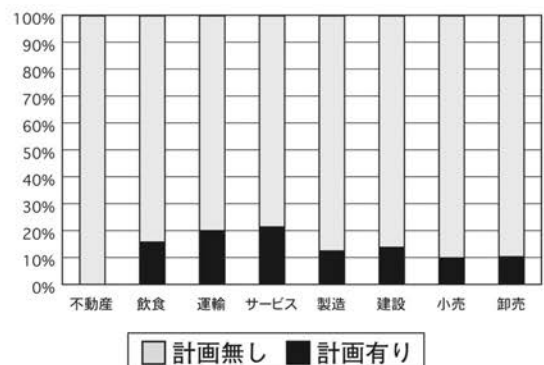
売上・受注DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無



卸売業

回答企業29企業

概況

～業況判断D I 値 やや改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比6.9ポイント上昇の▲27.6とやや改善したが、前回調査予想値(0.0)を大きく下回る結果となった。項目別では、売上・受注で10.3ポイント上昇の▲17.3、売上数量は17.3ポイント低下の▲48.3、利益でも13.8ポイント低下の▲34.5となった。

さくら祭りやゴールデンウィークの人流増による消費拡大に期待感あったが、仕入・原材料価格や燃料費・電気代の高騰もあり業況は低迷した。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

鮮魚卸売は漁獲高の減少や大手スーパーの倒産等の影響等を受け、売上高・利益とも減少傾向にある。

建設資材卸売業は、資材高騰が続いており売上高も減少傾向となり、利益確保が難しい状況。

主力商品であるりんごについては、品薄から仕入価格、販売価格とも高値で推移。売上高は減少しているが、利益確保が見込まれているものの、運賃や資材高騰の影響もあり減少傾向。

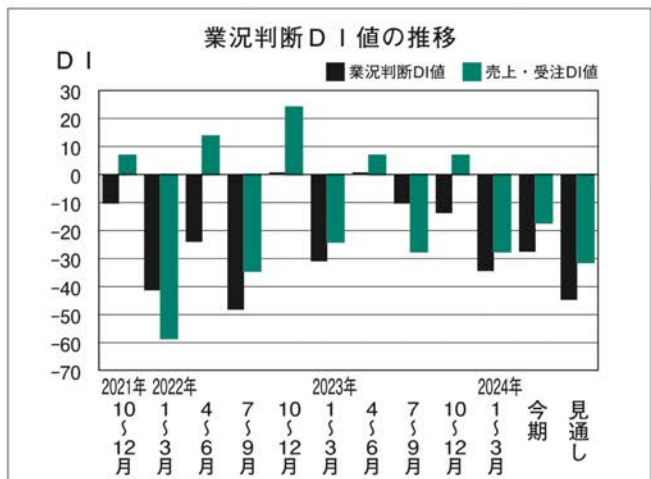
来期の見通し

～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比17.2ポイント低下の▲44.8と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で13.7ポイント低下の▲31.0、売上数量は3.5ポイント上昇の▲44.8、利益でも13.8ポイント低下の▲48.3と悪化の見込みとなった。

食品・アルコール類は夏祭りやイベントへの期待感もあるが、総体的には各業種とも業況は厳しい見通しとなる。



建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断D I 値 大幅改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比33.3ポイント上昇の0.0と改善、前回調査予想値(1.8)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注が52.5ポイント上昇の8.6、売上数量も52.5ポイント上昇の8.6、利益でも30.0ポイント上昇の▲12.1となった。すべての項目で大幅改善となった。

受注工事に於いては業者間の格差見られるものの、おおよそ例年並みの動き。資材価格高騰は継続しており利益確保に影響している。

分野別の状況

～総合的業況は大幅改善で推移～

板金工事や土木工事は堅調に推移している。

造園工事業は、固定客を中心に雪囲いの取り外しや庭木の手入れ等売上増となるが、固定客の減少が続いており受注確保が厳しい状況となっている。

一般住宅において建築費高騰から新築物件の契約率低下が見られ、リフォーム工事が増加傾向となる。

来期の見通し

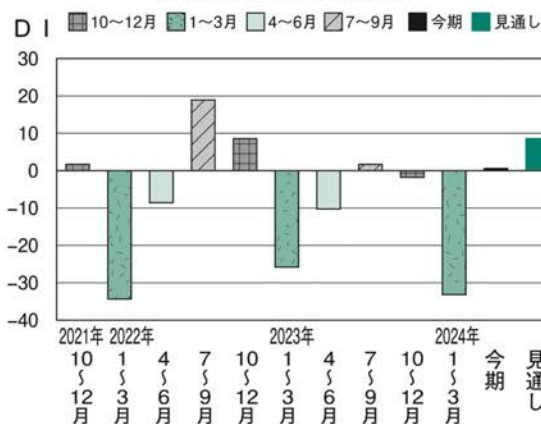
～業況判断D I 値 やや改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比8.6ポイント上昇の8.6と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で▲5.1ポイント低下の3.5、売上数量も10.4ポイント低下の▲1.8、利益では6.9ポイント上昇の▲5.2となった。

一般住宅の受注状況は回復傾向が見込まれているものの、人員不足をあげる事業者も多く、人材・下請先確保に注力している。

業況判断D I 値の推移



製造業

回答企業32企業

概況

～業況判断D I 値 やや改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比8.8ポイント上昇の▲9.4とやや改善し、前回調査予想値(6.1)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で27.6ポイント上昇の9.4、売上数量も24.4ポイント上昇の6.2、利益でも24.6ポイント上昇の9.4と全ての項目で改善となった。

さくら祭りやゴールデンウィークがあり食品関連は好調に推移。

分野別の状況

～総合的業況 やや悪化で推移～

衣料縫製業では女子制服用スラックスズボンの受注が好調に推移。ハイブランド関連も受注安定。

原材料を輸入に頼る食品製造業に於いては、価格転嫁による値上り、販売数量の減少につながった。

生コン製造業者では建設業者が動き出した事により売上増加傾向。4月より価格値上りにより適正な利益確保。

来期の見通し

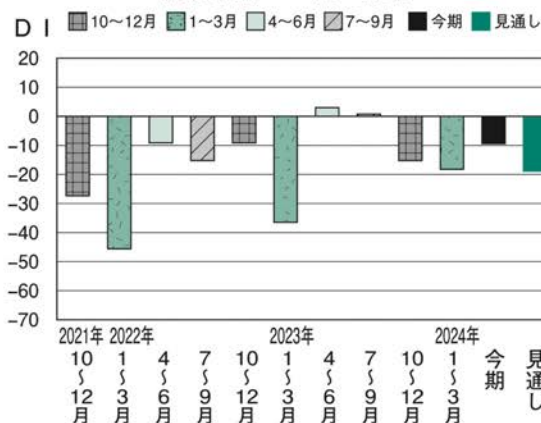
～業況判断D I 値 やや悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比9.4ポイント低下の▲18.8とやや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注では21.9ポイント低下の▲12.5、売上数量も19.1ポイント低下の▲12.9、利益でも25.0ポイント低下の▲15.6と、項目別でも悪化の見通しとなった。

製造業では「材料・仕入価格上昇」や「売上の低迷・減少」を懸念している先が多く、不安な見通しとなった。

業況判断D I 値の推移



サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断D I 値 大幅改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比33.3ポイント上昇の11.9と大幅改善となったが、前回調査予想値(19.0)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で38.1ポイント上昇の11.9、売上数量も42.9ポイント上昇の14.3、利益でも35.7ポイント上昇の9.5と項目別でも大幅改善となった。

宿泊業では、春の行楽シーズンや円安に伴うインバウンドの増加により、例年同時期と比べやや増加傾向にあった。

分野別の状況

～総合的業況大幅改善で推移～

宿泊業ではインバウンドが増加し、祭りや大型連休も相まって好調に推移した。来期も祭り本番を迎え好調を見込む。

自動車関連は、板金修理は減少しているが、車検・車両修理は堅調に推移。人員不足を抱えている事業者が増加している。

来期の見通し

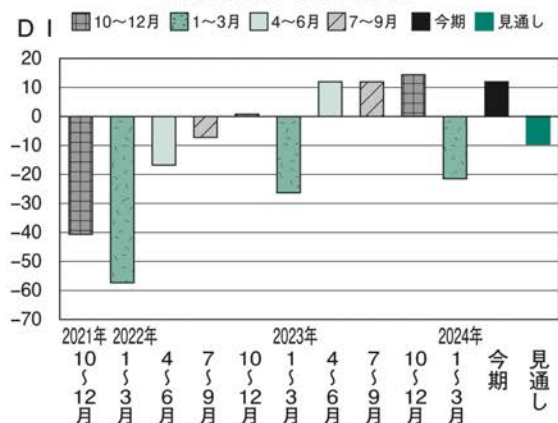
～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比21.4ポイント低下の▲9.5と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注では19.1ポイント低下の▲7.2、売上数量も14.3ポイント低下の0.0、利益でも14.3ポイント低下の▲4.8と各項目とも悪化の見通しとなった。

業種別では、夏休みや祭りシーズンによる期待感があるものの、総体的には「原材料価格」や「人件費等」の高騰の影響もあり、悪化の見通しとなった。

業況判断D I 値の推移



運輸業

回答企業10企業

概況

～業況判断D I 値 横ばいで推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比0.0ポイントの▲30.0と横ばい、前回調査予想値(▲20.0)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で40.0ポイント上昇の▲10.0、売上数量も50.0ポイント上昇の▲10.0、利益では40.0ポイント上昇の▲20.0の結果となった。

旅客については堅調、青果輸送については減少傾向、災害関連の受注もあり業者間の格差見られる。燃料価格や人員不足は共通の課題となっている。

分野別の状況

～総合的業況は横ばいで推移～

旅客運送業は、さくら祭りの集客やツアーが増加し好調に推移。

貨物輸送は業者間の格差があり、燃料費高騰による価格転嫁が済んでいる業者は利益確保されているが、価格転嫁が出来ていない業者は厳しい状況。

りんごの数量減少の影響があり、りんご輸送については前年を下回る事業者が多く見られた。

来期の見通し

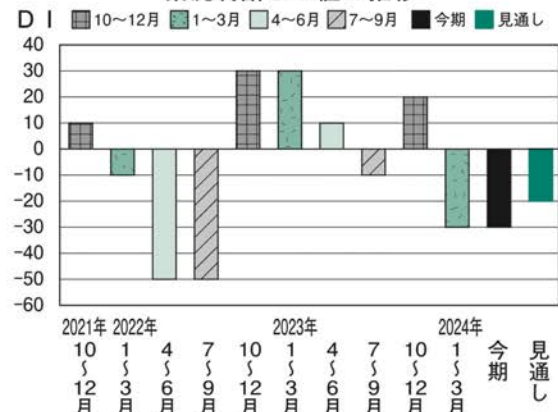
～業況判断D I 値 やや改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比10.0ポイント上昇の▲20.0とやや改善の見通しである。項目別では、売上・受注が横ばいの▲10.0、売上数量も横ばいの▲10.0、利益でも横ばいの▲20.0となった。

来期は野菜類の輸送が主力となるが、りんごの長距離輸送も本格化する時期となることから改善を見込んでいる。

業況判断D I 値の推移



飲食業

回答企業19企業

概況

～業況判断D I 値 大幅改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比42.1ポイント上昇の36.8と大幅改善、前回調査予想値(31.6)も上回る結果となった。項目別では、売上・受注で36.8ポイント上昇の26.3、売上数量も47.4ポイント上昇の31.6、利益でも26.4ポイント上昇の5.3と各項目で改善した。

さくら祭りやゴールデンウィークの影響大きく売上は増加した。仕入価格、給水光熱費等の経費増加により利益は減少傾向。

来期の見通し

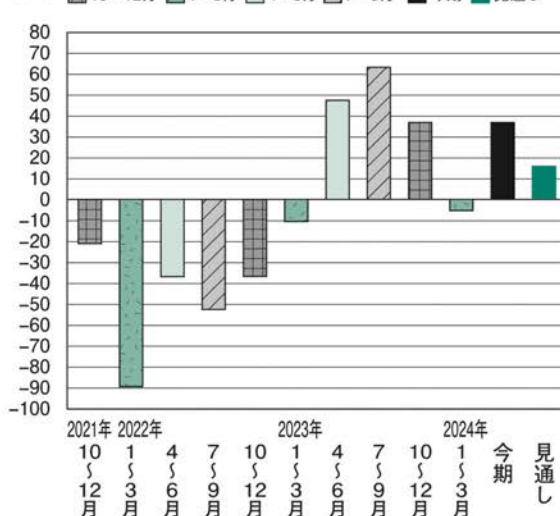
～総合的業況判断では悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比21.0ポイント低下の15.8と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で15.8ポイント低下の10.5、売上数量も21.1ポイント低下の10.5、利益でも5.3ポイント低下の0.0と全項目でやや悪化の見通しとなった。

ねぶた祭りや、お盆の帰省による期待感大きいものの、「材料費」「給水光熱費」が高止まりしており利益確保が課題となっている。

業況判断D I 値の推移



不動産業

回答企業9企業

概況

～業況判断D I 値 改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比11.1ポイント上昇の▲11.1と改善、前回調査予想値(▲11.1)と同様の結果となった。

項目別では、売上・受注で33.3ポイント上昇の0.0、売上数量は22.2ポイント上昇の▲11.1、利益でも33.3ポイント上昇の11.1と改善となった。

物件の高騰により利幅も縮小しているが、管理業務などは例年並みに推移し、大きな変化はなかった様子。

来期の見通し

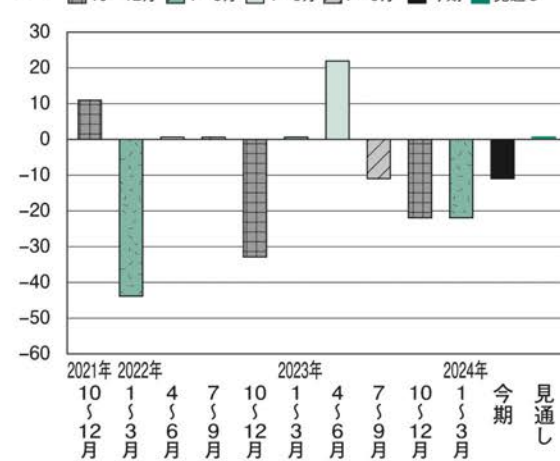
～総合的業況 横ばいの見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比11.1ポイント上昇の0.0とやや改善の見通しである。項目別では売上・受注で11.1ポイント上昇の11.1、売上数量が横ばいの▲11.1、利益でも横ばい11.1の見通しとなった。

来期も物件価格は高騰が続く見通しであり、業況は横ばいを見込んでいる。

業況判断D I 値の推移



調査要領

- 調査時期 2024年6月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内290社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」 「やや増加(やや上昇)」 したとする回答と、「減少(下降)」 「やや減少(やや下降)」 したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。